

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.55
2011-4-30

일한 시민 네트워크・나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

目次	1. 事務局通信	統括幹事：後藤和晃
	2. 会の活動	事務局
	3. お知らせ	事務局
	4. ソウル便り	坂野慎治

사무국통신 事務局通信

今こそ日本が一丸に！ ～建築家 安藤忠雄氏の提言に共感

事務局 統括幹事：後藤和晃

3月11日（金）午後2時46分、名古屋周辺の住民はこれまで全く経験したことがない、長い揺れに遭遇しました。誰もが「この異常に長い大きな揺れはいったい何なのだろう！？」と不吉な思いを抱いたものです。



この瞬間から東日本の太平洋の住民たちは、21世紀の最悪の天災の一つとして記録されるに違いない「東日本大震災」のただ中に放り込まれたのです。

11日以降、現地からは生中継で目をおおわんばかりの惨状が連日、伝えられました。一方、新聞や放送では有識者たちの提言が次々と放送・掲載されました。

今回の事務局通信は、事務局が日頃から尊敬している建築家の安藤忠雄氏（大震災

復興構想会議議長代理）が3月末に日本経済新聞に寄稿した提言を取り上げ、共感をもって、以下に紹介したいと思います。

（前半省略）…今こそ国は非常事態宣言を発令しなければいけない。国民全員が全力で被災地の人々を支えるべきである。報道される被害状況は刻一刻と変化している。そんな中、何日も家屋に閉じ込められ、自衛隊に救出されたおばあさんが、迷惑をかけたと謝罪し、丁寧に礼を述べる姿や、自分たちが頑張ると必ず故郷を復興させると声をあげる被災地の子どもたちの姿に涙が出る。

私は現在アジアで多くの仕事を手掛けているが、大震災の直後、中国、韓国、台湾などのクライアントから義援金の申し出を受けた。「どこに送ればいいのか」と連日のように問い合わせが来る。役立ててほしいと高額の小切手を送ってきた人もいる。彼らは同じ人間として救いの手を差し伸べているのである。近代以降、日本とアジアの間ではぎくしゃくとした関係が続いた。よく考えてみると日本には、こちらからアジアを見るという視点しかなかったためではないか。それも上の方から見てきたよう

に思える。最近でこそ違ってきたようだが…。

これからはアジアから見ると日本はどう見えるのかということをもっと考える必要がある。私も仕事を通して「アジアはひとつ」「地球は一つ」を実感している。お互いに助け合い、支えあいながら新しい世界をつくるべき時を迎えている。

多くの国々から救いの手が差し伸べられている一方で、市場は日本の状況を静観し

ている。震災への対応は、日本という国の信用問題にかかわる重大な問題だ。かつての経済大国としての勢いは陰り、存在感が薄くなっていた日本に、さらに襲ってきた大災害。だが私たちには、45年の敗戦から見事に復活を果たした粘り強い国民性がある。今こそ一丸となって厳しい現実に向かい向かわねばならない。それは日本の存在感を再び世界に発信することにもつながるだろう。



地震で断層ができた道路



水素爆発で破壊した福島原発



建築家 安藤忠雄 (69)

安藤忠雄 / 安藤忠雄建築研究所

略歴 / 受賞歴

- 1941年 大阪府大阪市港区生まれ
- 1969年 安藤忠雄建築研究所を設立。
- 1979年 第31回日本建築学会賞受賞（住吉の長屋）
- 1995年 1995年度プリツカー賞受賞
- 2005年 東京大学特別栄誉教授 / 安藤忠雄文化財団設立
- 2006年 東京オリンピック招致委員会-グランドデザイン総監督
- 2011年 東日本大震災復興構想会議 議長代理
- 2010年 2010年度文化勲章受賞



会の活動

- 1) 2010年度 実施行事
- 2) 2010年度 会計報告書
- 3) 2011年度 態勢
- 4) 2011年度 年間行事

会の活動報告 ～ 3月20日 ～

総会は名古屋国際センターの研修室でおおよそ30人が出席して開催されました。例年通り前年度の実績や会計報告、そして今年度の事務局態勢や行動計画などが拍手で承認されました。各項目については以下にそれぞれ掲載しますので十分目を通して下さい。

特記事項としては①新態勢の中で鈴木幸之助さんが2人目の副統括幹事に就任されたこと②11年度年間行事の目玉として7月22日から26日までソウルの名門大学高麗大学の教育部から交流団を迎えることになった事などがあります。高麗大学交流団の招請につきましては奈良一泊旅行のプレゼントや韓国学校での交流パーティーの実施などを行うために時期近づきましたら恐縮ですが例年通りご寄付のご案内を致しますので宜しくお願いします。

1) 2010年度 実施行事

“日韓市民ネットワーク・なごや” 2010年度実績

日韓市民ネットワーク・なごや

月	日	曜日	行 事	人数	備 考
4	9	金	韓国大邱市での水崎林太郎翁追慕祭に参加	4	遺族・事務局から
	18	日	日韓交流史講座Ⅱ百濟編－3 百濟木簡から読み解く交流	47	歴史民族博物館 平川 南 館長
	29	木	“日韓市民”交流の森	56	犬山市・八曾自然林
5	3	月	日韓の高校生交流を支援	70	グループ“ハムケ” 久田光政幹事
	16	日	日韓交流史講座Ⅱ百濟編－4 百濟古墳の特徴と影響	45	南山大学名誉教授 伊藤 秋男 氏
	21	金	韓国光州弁護士会と交流	9	事務局グループ
6	26	土	日韓交流史講座Ⅱ百濟編－5 渡来系歌人の系譜	49	奈良大学 上野 誠 氏
7	20～ 24	火～ 土	日韓交流史講座Ⅱ百濟編－6 栄光の百濟・残影紀行	25	忠南大教授 朴 淳弼 氏
8	5～ 9	木～ 月	光州学生訪問団受け入れ パーティ 8月8日(日)	50	団長 パン・スギョン理事
10	31	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－1 新羅の誕生と全国統一	30	日比谷高校教諭 武井 一 氏
11	14	日	許浚「東医宝鑑」400年記念シンポに協力	150	会員・協力者
	28	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－2 新羅古墳と日本の古墳文化	54	九大名誉教授 西谷 正 氏
12	19	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－3 正倉院に見る新羅の影響	51	国学院大教授 鈴木 鎮民 氏
2011年					
1	8	土	話してみよう韓国語・日本語大会	150	ハムケと共催
	16	日	日韓市民交流の夕べ	52	会員・留学生・協力者
	23	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－4 万葉集と新羅	50	日本大教授 梶川 信行 氏
2	13～ 17	日～ 木	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－5 黄金の新羅・残影紀行	26	大邱・慶北大 朴 天秀 教授
3	20	日	日韓交流史講座Ⅲ新羅編－6 新羅・亡国への道	47	日比谷高校教諭 武井 一 氏
	20	日	第14回総会		



光州学生交流団 2010/08



八曾交流の森 2010/04

2) 2010年度 会計報告書

2010年度 会計報告書

2010年4月1日 ~ 2011年3月31日

前年度繰越金	¥ 569,166
今年度収入額	¥ 566,896
今年度支出額	¥ 580,753

次年度繰越金	¥ 555,309
内訳 郵便貯金	¥ 500,431
現金	¥ 54,878

収入の部		支出の部		2007-9平均
① 今年度会費	362,000	① 通信費	212,430	184,715
¥4,000×89名		会報・案内・資料送付	92,430	124,048
¥2,000×3名		事務局電話等活動費用	120,000	60,667
② その他の収入	204,750	② 印刷・コピー費	43,243	40,691
交流史講座・講師2名の寄付	80,000	③ 事務用消耗品費	45,122	37,643
1/16 新年交流会・残金	124,750	④ 日韓交流関係費	90,899	128,419
③ 受取利息	146	⑤ ホームページ運用費	44,940	50,273
		⑥ 会議・会場費	11,200	9,720
		⑦ 協力者謝礼	75,264	98,908
		⑧ 交通費・下見費用	56,710	90,688
		⑨ 雑費・手数料	945	57,900
計	566,896	計	580,753	698,957

※ 会費や寄付金等のお振込の際の郵便振替口座は 入金が有り次第、即現金化をしておりますので、この報告書では 全て現金勘定扱いとして記載し、郵便振替口座収支の報告は省略させていただきます。

2011年3月20日 上記の通り報告いたします。

会 計

伊 藤 みつ子

印

監査の結果、正確であることを認めます。

会計監査

大久保孝造

印



池 貴巳子さんの2010年の作品から

3) 2011年度 態勢 4) 2011年度 年間行事

2011年度日韓市民ネットワーク・なごや 組織表

日韓市民ネットワーク・なごや

顧問 回	名誉顧問	鄭 煥 麒
	"	横内 恭
	"	伊藤 秋男
	代表顧問	石原 俊洋
	顧問	伊 大 辰
	顧問	李 尚 勲

幹事 回 (全員事務局兼務)	統括 幹事	後藤 和晃
	副統括幹事	中川 修介
	副統括幹事	鈴木幸之助
	幹事(会計)	伊藤みつ子
	幹事(渉外)	小出 宣明
	幹事(留学生)	須田奈保美
	幹事(高・大生)	久田 光政

事務局	事務局長	後藤 和晃
	事務局次長	中川 修介
	事務局次長	東 道 生
	幹事兼務グループ	
	事務局補佐	鈴木奈津子
	事務局補佐	竹中志保美
	事務局	武田 章敬

交流 リ ダ ー	徐 彰 教	韓国での交流
	坂野 慎治	ソウルでの交流
	目黒 博	留学生
	武井 一	日韓交流史
	宮本 昌子	日本語指導
	加藤 勝	囲碁交流
	伊藤 義郎	歴史・考古
	土岐 良文	歴史・考古
	三尾 和廣	森で遊ぶ
	土木美恵子	
	田口 良浩	ハイキング
長澤 進	日本古典音楽	
鈴木 健介	大学生・留学生	

グ セ ル わ ー や プ ぎ	増田 一夫	松田 哲育
	鶴飼 満	山田あき子
	佐藤 昭子	山本 玲子
	山田 雅樹	市川 延江

監査	会計監査	大久保孝造
----	------	-------

“日韓市民ネットワーク・なごや” 2011年度予定

日韓市民ネットワーク・なごや

月	日	曜日	行 事	備 考
4	17	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路口・海峡の島々ー1 地理で見る 対馬・壱岐・北九州	日比谷高校教諭 武井 一 氏
5	3~5	火~木	日韓の高校生交流を支援	グループ“ハムケ” 久田 光政 幹事
	21	土	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路口・海峡の島々ー2 海峡を渡った弥生文化～原三国の集落と弥生の集落～	福岡大学教授 武末純一氏
	22	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路口・海峡の島々ー3 古墳時代以後の遺跡	福岡大学教授 武末純一氏
	28	土	“日韓市民”交流の森	犬山市八曾自然林
	末頃		韓国光州弁護士会と交流	事務局グループ
6	19	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路口・海峡の島々ー4 海峡の島の宗教世界	奈良県立図書館情報館長 千田 稔 氏
7	17	日	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路口・海峡の島々ー5 倭寇 奔る 海峡	名古屋大学教授 高橋 公明 氏
	22~26	金~火	高麗大学生訪問団受け入れ 奈良旅行とホームステイ・交流の夕べ 7月24日(日)	会員・協力者
9	27~30	火~金	日韓交流史講座Ⅳ 文明の十字路口・海峡の島々ー6 海峡の島々紀行 ～対馬・壱岐・北九州～	九州歴史資料館館長 西谷 正 氏
12	11	日	日韓市民交流の夕べ 名古屋韓国学校に於いて	会員・留学生・協力者
2012年				
1	7	土	話してみよう韓国語・日本語大会	ハムケと共催 ※日程変更もありえる
3	18	土	第15回総会	

※ 2011年10月より、日韓交流史講座「高句麗・渤海シリーズ」の設定を検討する。



お知らせ

- 1) “日韓学生・市民”交流の森にご参加を！
- 2) 会報54号の記事訂正
- 3) 会員 瀬尾文子さんの新刊本の紹介

1, “日韓学生・市民”交流の森にご参加を！

～ 犬山市・八曾自然林 ～

内 容：恒例の留学生を大自然の中に招いての集い。山歩き、川遊びを楽しむ一方、バーベキューやトッポッキなど腹いっぱい美味しいものも食べながら日韓の対話を楽しみます。

※晴雨にかかわらず実施します

日 時：5月28日(土) 10:00～15:00

参加費：成人 3000円 大学生・高校生 1000円

留学生 無料

※参加費は当日八曾で頂きます。

参加申込：同封のハガキで参加の是非をお知らせ下さい

参加方法：名鉄小牧線の羽黒駅に朝9時15分までに集合してください



2, 会報54号の記事訂正

3月に発行の54号に掲載した新羅紀行感想文の中で、重要な箇所間違った漢字が使われていましたので、お詫びして訂正します。新羅の歴史や考古学に関心がおありの方は、ぜひ間違った字を消し、正しい字に書きかえておかれるようお願いいたします。

修正箇所は、会報7ページの左側の15行目です。動物の「耳」とあるのが誤字で正しくは動物の「牙」です。この部分は、勾玉(まがたま)の姿は何を形どっているかを考察しており、筆者の伊藤義郎さんは、「勾玉には①動物の牙、あるいは②人間の胎児の形を形どったという二つの説がある」ことを紹介されていました。

伊藤さんは、つねづね日韓交流の歴史や考古学に幅広い知識を持つ立場から、旅行の感想文を書かれています。それだけに旅行に同行した人たちが氏の感想文を参考にされることが多いので、正しい情報を伝えようと、訂正記事を掲載したものです。

3, 会員・瀬尾文子さんの新刊本を紹介します

愛の時調 ～ コリア恋愛詩集 ～

著者、瀬尾文子さんは戦前、全羅南道の国民学校で教師として奉職しました。敗戦で帰国後、一念発起して名古屋韓国学校で韓国語を習得し、韓国の古代からの定形詩・時調(シジョ)の研究に打ち込んできました。これまでに研究の成果を「時調四四三首送」や「春怨秋思」などの著書にまとめ発表されています。今回の新刊は古い時代から現代に至るまでの、韓国の風土と人がつむぎ出してきた愛の時調169首をいっきに紹介したもので読み応えがあります。ぜひお読み下さい。

発行 2011年3月25日

出版 角川学芸出版

定価 2300円(税別)





회원마당
会員広場

会員：鈴木健介 学生代表

会員：李 貞培 (イジョンベ) 留学生から本会員へ

「市民の力」信じて・・・鈴木健介 (名大生・交流リーダー)

去る3月11日に東北・関東地域を襲った東日本大震災。いつもの生活が、住み慣れた町が、思い出が、全て流されてしまった被災地の様子を見ると、そして、大切な人を失った多くの方々のことを思うと、胸が張り裂けそうになります。被災された全ての方々にお見舞いを申し上げるとともに、犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈りします。



東別院の「愛知ボランティアセンター」

「大きな地震が起きた時いたが、健介のところは大丈夫だったか？」地震発生後すぐに、韓国に住む多くの友人から、たくさんのメールをもらいました。中には、「時間さえつければ、被災地にボランティアに行きたいと考えている。」と書かれたメールもありました。震災から1週間後に、ソウルに1週間滞在した際にも、地下鉄の中で見知らぬおじさんから「地震の被害はなかったか？」と聞かれたり、買い物に行った店の店員からも家族や友人の無事を尋ねてもらったりしました。明洞や東大門市場には、「がんばれ日本！」の横断幕が掛けられ、帰りの済州航空の機内でも、乗客に「ヒムネラ！イルボン！（がんばれ！日本！）」と書かれた缶バッジが配られました。

未曾有の大震災を受け、社会が悲しみに包まれる中、遠く離れた被災地に向け、隣国からエールが送られていることに、誰もが、温かみを感じ、言葉では言い表せない感謝の念を抱いたことと思います。支援の

手を差しのべているのは、もちろん、韓国だけではなくありません。世界中が被災地を応援しているというニュースを見ると、熱いものがこみ上げてきます。

3月末からは、当会の会員で、私の恩師である久田光政先生が代表を務める「東日本大震災被災者応援 愛知ボランティアセンター」にスタッフとして参加し、被災地・被災者のために自分ができることをしたいという思い一つで活動をしてきました。久田先生は、95年の阪神淡路大震災の時から災害ボランティアをされてきて、16年間にわたって震災遺児への支援も続けてこられた方です。愛知ボランティアセンターは、名古屋で衣類を中心に支援物資を収集し、仕分けを行い、週末に、一般公募のボランティアとともに、被災地・石巻の避難所に支援物資を直接届けるという活動を中心に行っています。私も、先週、先々週と2回被災地へ赴き、被災地で一生懸命に毎日を過ごされている被災者の方々を、微力ながらも支えたいと活動してきました。



石巻市立湊小学校で支援物資を配布

具体的には、同行した医師・看護師や整体師と一緒に、健康相談室やマッサージ室を避難所に特設し、被災者の方々の健康面のケアを行いました。「今までは、とにかく毎日過ごすだけでも精いっぱいだったが、震災から1ヶ月間が経ち、ようやく自分の身体をいたわれるようになった」と、多くの方がマッサージを受けに来られました。

ボランティアは見返りを求めるものではありません。しかし、被災者の方がおっしゃって下さる「ありがとう」という一言は、本当に心にしみるものです。

我々が訪れている、宮城県石巻市は、2600人以上の方が亡くなり、今も2700余名の行方が分かっていません。津波と火災で、完全に町が失われた地域もあります。テレビや新聞で見たことがある光景であっても、実際の被災地に行くと、映像や写真では伝えられない恐怖感や悲しみ、虚しさ、やるせなさに囲まれます。そんな被災地で、被災者の方々は、ぬぐいきれない悲しみをぐっと抑えながら、懸命に前に進もうとされています。「復興」のために、私ができることは、本当に小さなことかもしれません。しかし、そうした一人では「小さな」存在である「市民」も、結集すれば、間違えなく「大きな」力となるはずです。



津波で堆積した泥をかき出す愛知のボランティア

さて、震災後に、ソウルを訪れたことを前述しました。町のいたるところに、被災地へのエールが掲げられ、とても温かい気持ち包まれた一方で、対極的なシーンにも遭遇しました。ちょうど、私がソウルに滞在している時に、日本の中学校の社会科の教科書で、竹島（独島）を日本の固有の領土と明記する教科書検定が公表されたのです。ある知人からは、この件に関して「震災で、日本に援助をしているというのに、『日本の固有の領土』

とは、いったいどういうことだ」と言われました。私自身は、この問題に対しては、お互

いに冷静な議論をしていくべきとの立場を取っていますが、領土問題と震災の問題が混同されてしまったことに、正直、少し悲しい気持ちになってしまった。しかし、こうした世論は、少なからず韓国社会に存在しているように思います。そして、それは、韓国と日本の間に、避けては通れない、根の深い様々な問題が横たわっている証拠でもあります。政府レベルでの議論も必要でしょうが、やはり、ここにおいても「市民」による対話が欠かせないものでしょう。親友であれば、どんな悩みでも腹を割って話せるように、日本と韓国の間の種々の問題に関しても、率直に意見を交わし、語り合えるような人間関係の構築を、市民レベルで進めて行くことが、これから、真の友好関係を作っていく上でも大変大きな原動力となることと思っています。

震災からの復興、そして日韓友好、ひいては世界平和のためには、「市民の力」が必要とされています。今年度からは、日韓市民ネットワークなごやの交流リーダーとしての役目をいただきましたが、「市民の力」を信じて、これからも精一杯、自分のできることに取り組んでいきたいと思っております。今年度も、よろしくお願いいたします。



瓦礫の山の石巻市内

東京での新生活・・・李 貞培（今春 HIS に就職）



皆さん、こんにちは。今年の4月から7年間の名古屋での留学生生活を終え、東京で新社会人として働いている李貞培と申します。お変わりありませんか？

私は3月から東京で暮らしていますが、東日本大震災で計画停電や食料不足、大きな余震などで厳しい状況に遭遇し、会社の研修がキャンセルになったりしました。無論のこと、福島の方々に比べ物にはならないと思いますが、私にもこの3月は大変なものでした。

4月からは現場に配属となり、今は H.I.S 池袋本店で働いています。最初は右も左も分からない状態で大変でしたが、職場の先輩たちにも仲良くしていただき、今は少し東京での生活にも慣れてきました。（今でも毎日のように怒られていますが）

今週は急にタイに行くことになりまして、4日間タイに滞在し、今日（4月24日）帰ってきました。充実した研修も良かったですが、何より現地のやさしい人々に触れ合うことができたこと、そして誠実で一生懸命に働く彼らの姿を見ることができ、とても刺激を受けました。彼らに負けないように頑張って自分を磨いていきたいと思います。

そしていよいよ明日（4月25日）社会人として初給料日を迎えます。産んでくれた親、育ててくれた牧野家の人たち、お世話になりました日韓市民ネットワークの皆さんに感謝しながら初給料で自分にできることをしていきたいと思います。

どんなことがあっても諦めず、頑張っていきたいと思いますのでこれからもどうぞ宜しくお願いします。また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。



実施予定行事

- (1) 5月/21日(土) 日韓交流史講座・文明の十字路②
海峡を渡った弥生文化・・・講師・福岡大学教授 武末純一氏
- (2) 5月/22日(日) 日韓交流史講座・文明の十字路③
海峡を渡った弥生文化・・・講師・福岡大学教授 武末純一氏
- (3) 5月/28日(土) 日韓交流の森・・・犬山市八曾自然林
- (4) 6月/19日(日) 日韓交流史講座・文明の十字路④
海峡の島々の宗教世界・・・講師・奈良県立図書館長 千田稔氏
- (5) 7月/17日(日) 日韓交流史講座・文明の十字路⑤
和冠 奔る海峡・・・講師・名古屋大学教授 高橋公明氏
- (6) 7月/22日(金)～26日(火) 高麗大学交流団招待
7月/24日(日) 交流団歓迎日韓交流パーティ
17:00～ 名古屋韓国学校

서울 소식



ソウル便り

韓国ソウル市在住 坂野慎治さんのソウル便りです。
韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されてます。

韓国ソウル在住 会員:坂野慎治

(梨花女子大学・通訳翻訳大学院講師)

東日本大震災に対する韓国の反応

まずは被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回の震災は、韓国でもたいへん詳しく報道されました。韓国には歴史的な経緯から日本に好意的ではない人もいますが、皆が自分のことのように心配しています。

大韓赤十字社の調べでは、震災後 6 日間で 105 億ウォン（約 8 千万円）の義援金が集まりました。これは、昨年ハイチ地震の際に 1 カ月で集まった金額を上回っています。3月下旬に日本の教科書への竹島の記載を巡って政治的にぎくしゃくしたときにも、震災とは別問題だとして支援が続けられました。

しかし、福島原子力発電所の事故については、不安ばかりが先行しているようです。例えば、全国的に雨が降った4月7日には、専門家の安全だという説明にも関わらず、休校や短縮授業を行う学校がありました。また、人気の高い日本製の紙おむつも、震災以前に製造されたものを買置きこうという消費者によって販売が急増しました。こうした過剰反応の背景には、不安をあおった一部の市民団体やマーケティングに利用した販売戦略もありますが、やはり聞き慣れない放射性物質への不安が大きいといえます。韓国政府や専門家がいくら安全だと言っても、特に子供のいる家庭では不安感を拭いきれないようです。

こうした点については冷静な対応を望むばかりですが、日本側も情報を正確・迅速に伝えられるよう努めるべきでしょう。情報が信頼されなければ、冷静な対応など望むべくもありませんから。



ついにこの日が来た！
1億2千万 最後の日
日本沈没

編集後記 (2011/4/30)

会員の皆さんアンニョンハセヨ！

このたび東北関東大震災に被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

そして一日も早い復興をお祈り申し上げます。

震災からもうすでに 2 ヶ月近くになりますがまだ復興の形が見えてきません。この震災の復興は間違いなく長期戦になると思います。

数日前、某テレビ放送でこの震災の被害者で老舗しょうゆ店の社長の言葉がとても感動的でした。この老舗醤油店は創業 200 年で全国品評会で最高賞を 3 度も受賞した会社だそうです。今回の津波で土蔵や杉樽などの醸造設備がすべて流され、多くの社員にも犠牲者がでて残ったものはトラック 2 台だけ、このような悲惨な状況にもかかわらず残った社員の前で給料袋を渡し社員全員の雇用を守りまた行方不明者の捜索やボランティア活動も本業と位置づけたそうです。「いつまでも支援物資に頼るわけにはいかない」という前向きの社長の発言には東北人魂そしてリーダーとしてのあるべき姿を教えられました。「人の噂も七十五日」にならないよう私たちは長い目で少しづつでも復興の援助を続けて行きましょう。

編集長&ホームページ管理者 中川 修介

Mail:webmaster@nikkannet.jp

